

令和6年度

# 事業計画書

学校法人 **廣池学園**

# 目 次

## I. 部門別事業計画

|   |             |   |
|---|-------------|---|
| 1 | 法人          | 1 |
|   | 1. 重点目標     |   |
|   | 2. 主な事業計画   |   |
| 2 | 麗澤大学        | 2 |
|   | 1. 重点目標     |   |
|   | 2. 主な事業計画   |   |
| 3 | 麗澤中学・高等学校   | 4 |
|   | 1. 重点目標     |   |
|   | 2. 主な事業計画   |   |
| 4 | 麗澤瑞浪中学・高等学校 | 6 |
|   | 1. 重点目標     |   |
|   | 2. 主な事業計画   |   |
| 5 | 麗澤幼稚園       | 8 |
|   | 1. 重点目標     |   |
|   | 2. 主な事業計画   |   |

## II. 組織

|    |        |    |
|----|--------|----|
| 1. | 役員・評議員 | 9  |
| 2. | 組織図    | 10 |
| 3. | 教職員の構成 | 11 |

## III. 予算

|    |          |    |
|----|----------|----|
| 1. | 資金収支予算   | 12 |
| 2. | 事業活動収支予算 | 13 |

## I. 部門別事業計画

### 1 法人

#### 1. 重点目標

- (1) 創立 90 周年（2025 年）に向けて新学部（工学部、経営学部）の開設と特色ある文理融合型総合大学への進化
- (2) 廣池学園創立 100 周年（2035 年）に向けた中期計画・将来構想の策定
- (3) 学園の現在と未来を担う人材育成及び人員計画の策定
- (4) 「麗澤」ブランドのイメージ向上のための具体的施策の立案
- (5) 安定した経営基盤の確立（麗澤各校の定員確保、施設設備計画、DX 推進、収益事業改革）

#### 2. 主な事業計画

- (1) 総務部
  - 1) 法人ビジョンの実現に向けた体制づくり（PDCA 他）
  - 2) ビジョン実現に向けた 7 つの戦略を実現中期経営計画の PDCA サイクルの進捗把握
  - 3) 私学法改正（令和 7 年 4 月）に向けた寄附行為の改定及び経営体制整備
  - 4) 私学法改正（令和 7 年 4 月）に伴う内部統制システムの整備
  - 5) 危機管理体制の強化
  - 6) 麗澤各校及び法人エリアのインフラ及び施設設備の修繕計画の策定
- (2) 広報部
  - 1) 麗澤各校と連携し全学的に『麗澤らしさ』『TEAM 麗澤』の浸透を図る
  - 2) 廣池学園創立 100 周年（2035 年）に向けて『麗澤ブランド』の創造基盤を構築
- (3) 情報システム部
  - 1) 全学での DX 活用促進を目指し、全教職員の IT スキル向上に寄与する DX 推進体制を構築
- (4) 財務部
  - 1) 経営基盤の更なる安定・強化（適正予算の配賦と管理体制の高度化）
  - 2) 中長期計画の策定と実施
  - 3) インボイス制度・電子帳簿保存法への体制整備
  - 4) DX 化の推進と生産性の向上
  - 5) 内部統制・法令遵守の意識醸成と体制強化
  - 6) 社会的な動向を踏まえた人件費構造の検討
- (5) 人事部
  - 1) 採用戦略の立案及び人材の獲得
  - 2) 人員の最適化による人員計画の策定
  - 3) 法令遵守及び時代に即した働き方・人事制度（定着）の推進
  - 4) 教育・研修制度の整備・推進による人材の成長支援
  - 5) 情報管理強化とシステム化による基幹業務の質的向上及び効率化
- (6) 収益事業部
  - 1) 収支改善への取り組み強化
  - 2) 遊休地の利活用など、新たな収益機会の創造
  - 3) 中長期計画の策定

## 2 麗澤大学

新しい中期計画（2023年度～2025年度）においては、「世界と地域に貢献する『グローバル人材』の育成」を教育目標に、現代の混沌とした社会を切り開く「対話と智慧とテクノロジーで課題を解決できる人材」を育てていく。特色ある文理融合型総合大学として、サステナブルな教育・研究活動を展開していく。

### 1. 重点目標

- (1) 文理融合・横断型のサステナビリティ教育の推進  
学生のアイデアを社会実装するための仕組みづくりとして、サステナビリティ教育を推進する。
- (2) ニューノーマル時代の学生支援  
学習支援として教育DXを推進し、学生の自主活動支援では、学生が主体的・意欲的に活動できる環境整備と支援を実施する。
- (3) 麗澤中高・麗澤瑞浪中高との教育連携  
系列校との教育連携を深めるため、高大連携体制を構築する。
- (4) 選ばれる大学になるための新しい取り組み  
地域に愛され、世界から選ばれる大学づくりを目指し、世界と地域に貢献する教育・研究活動を推進する。
- (5) 新たな知を創出する研究活動  
地域や産業との共同研究や連携活動を通じて、社会課題の解決に貢献し、本学を中心とした共創活動を通じて得られた知を発信する。Ed Techを導入し、本学の教育力の強化を加速させる。

### 2. 主な事業計画

- (1) 教育活動
  - 1) 各学部DPを達成できるようにカリキュラムを生かせる時間割ポリシーを確立する。
  - 2) 新教務システム、新ポータル機能を活用した学習支援体制を確立する。
  - 3) 校舎設備を活用した、学生のPBL活動の支援体制を構築する。
  - 4) 奨学金制度を再構築し、学生の自主活動を支援できる体制を整える。
  - 5) Ed Techによる新しい学習支援を実施する。
- (2) 学習支援活動
  - 1) 麗澤大学情報教育システム2024整備計画の安定運用に務める。
  - 2) BYODを利活用した学びの実践のため、BYOD導入授業の実践に取り組む。
  - 3) ICT活用授業の推進のため、Google等の利用促進に取り組む。
  - 4) 生成AIの利活用を学生教育、事務及び研究の効率化の側面において推進していく。
- (3) 学生支援活動
  - 1) 学内の基幹システムの切り替えを好機として既存の情報提供体制をブラッシュアップし、新学部の需要を網羅した使い勝手の良い仕組みを構築することによって学生の利便性を高める。
  - 2) 新設の理系学部と既存文系学部双方の特性に応じた課外活動支援体制を構築し、制度と施設両面における合理的な制度設計を実現する。
  - 3) 奨学金の利用など学生支援全般において、相談者の目線に立った受け入れ態勢を整備すると共に、新基幹システムを活用した情報共有の徹底を行う。
  - 4) 次代を見据えた寮運営体制を検討し、恒常的な発展・安定化を目指す。
  - 5) 学生相談室の諸活動を通じて、多様性を尊重する大学コミュニティの醸成に寄与する。
  - 6) 学生相互によるサポート体制において、学生個々のニーズに合わせて支援を行うと共に、学生サポーターの育成に取り組む。
  - 7) 学内のバリアフリー化を推進するにあたり、バリアフリー化未対策事項を明確にし、改善・改修を依頼する。

(4) グローバル教育活動

- 1) 教員間で共有された COIL 型授業の実践例を基に、COIL 型授業を拡充する。
- 2) 奨学金制度の見直しを進め、留学しやすい仕組み作りを構築する
- 3) RIFA・カンパセーションパートナーシップとの協働による学内の国際交流活動の一層の活発化を図る
- 4) 地域社会と一体となった国際化を推進する。

(5) 入試・広報活動

- 1) 志願者（入試区分）毎にきめ細かい情報発信を行い、安定的な入学者確保を図る。
- 2) 志願者、入学者データに基づく効果測定を行い、合理的な広報及び募集施策を展開する。

(6) キャリア形成支援活動

- 1) 低学年からのキャリア形成支援及び就職支援をより一層改善強化し、文理融合の就職支援体制を構築する。
- 2) 卒業時進路未決定者を一人でも少なくすべく、きめ細かな支援を行い、実就職率\*90%以上の達成を目指す。  
\*実就職率=就職者÷(卒業者-大学院進学者)×100
- 3) 採用の早期化や景気変動に伴う採用市場の変化にも振り回されない、文理融合の多様な学生に応じたキャリア支援環境を整備する。

(7) 社会連携活動

- 1) ROCK が開講する生涯学習講座、特別講演会を通じて生涯学習プログラムの更なる深化をもち、地域社会のシニア世代へ充実した教育機会を提供する。
- 2) 地域・産業・行政との連携により教育力・研究力及び社会貢献力を向上させる。

(8) 研究活動

- 1) 外部資金を活用した研究活動（競争的研究費など）を推進する。
- 2) 理系研究の増加に対応すべく、研究支援体制の構築と指針・ルール等の整備を進める。

(9) 大学経営基盤の強化

- 1) 教育活動収支の黒字定着を図る。
- 2) 経営組織と協働し、経営力・ガバナンスを強化する。
- 3) 新しい人事制度、教職員評価制度の定着を図る。
- 4) 計画的なキャンパス整備を実施する。

### 3 麗澤中学・高等学校

建学の精神に則り、国家・社会及び国際社会に貢献できる人材を育成する。この目的を達成するため、教育内容及び教育の質の更なる向上を目指し、ビジョン、中期計画に沿う諸施策を実行する。

#### 1. 重点目標

- (1) ビジョン実現に向けて、特設プロジェクトチームを編成し、本校の教育内容の充実を図る。
  - 1) 「総合的な探究の時間」の推進を図り、「主体的・対話的で深い学び」を本校のすべての科目の主軸に据え、年度学習計画を立案して教育の充実化を促進する。
  - 2) 「DX ハイスクール」の推進を図り、「テクノロジーを活用したイノベーション人材の育成」を教育目標に掲げ、ICT教育の充実化に向けて、整備を進めると共に、探究活動・理数科目・情報Ⅱの授業の充実を図る。教員の活用能力を高め、社会で求められるデジタルスキル、課題解決力を身につけ、未来社会をリードする人材育成を目指す。
  - 3) 生徒の国際的な視野と異文化理解を深め、5領域をバランスよく鍛え、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。英語教育を強化し、提携校との交流を通して、実践的な英語力と異文化コミュニケーション能力を向上させる。
- (2) ビジョン実現に向けて、本校の広報戦略を強化する。
  - 1) 2026年度の臨時定員増終了に向けて、中高定員の適正化計画を確定させる。
  - 2) 中学入試における募集戦略を見直し、より質の高い入学生を確保する。
  - 3) 高校入試においては、塾・中学訪問強化に努め、志願者増に向けての諸方策を実施する。
  - 4) 校内外の広報イベントの見直しを図り、塾や外部機関との関係強化を行う。
  - 5) 完成年度を迎える通信制課程の教育内容の充実を図り、新入生・転編入生の確保に努める。
- (3) 教職員の職場環境・勤務体制の更なる充実に向けて、働き方改革を更に推進する。
  - 1) 勤務体制の更なる充実を図り、教職員の業務の効率化を推進すると共に、教職員間の業務の適正配分の実現を目指す。
  - 2) 教職員の超過勤務を更に縮減することで、より働きやすい充実した職場環境作りを目指す。

#### 2. 主な事業計画

- (1) 教務
  - 1) 教務システムの安定した運用を実現し、新中学校指導要領・新高校指導要領に則した運用の改善に務める。
  - 2) 教員の採点業務効率化のため、デジタル採点ソフトの利用を普及し効率化を図る。また、定期試験へのマークシート形式導入を普及する。
  - 3) 2024年度の中学校5クラス体制、教室・備品の整備を進める。
- (2) 進路指導・学習指導
  - 1) 一人ひとりの進路実現に向けて、難関国公立大学合格者の志ある現役合格者を育て上げることで、次代に貢献できる人材を輩出する。
  - 2) 学力到達目標実現に向けて、学習指導チーム及び進路指導チームによる前年度施策の検証を行い、学年部長を中心に、担任・授業担当者が指導力向上と成果結実に努める。
  - 3) 中学1、2年生及び高校4年生の初期指導を強化することで、基礎学力の向上に努める。
  - 4) 「校内予備校プロジェクト叡智」の運営を継続するとともに、2024年度から新たに「学習サポートシステム」を導入して、生徒の学習習慣を身につけるサポートを行う。
- (3) 生徒指導

- 1) 生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばさせ、社会に貢献できる人材を育成する。
  - 2) 校則や規律を守り、秩序ある学校生活を送る習慣を身につける。
  - 3) いじめや不登校などの問題行動を未然に防止し、生徒の安全と安心を守る。
- (4) 特活指導
- 1) 本校の部活動を強化し、生徒の健全な育成を目指す。
  - 2) 強化指定部である女子ラグビー部の体制を更に整える。
  - 3) 部活動の複数顧問制と外部コーチ招聘を組合せるとともに、顧問の負担軽減を推進する。
- (5) 高校男女寮
- 1) 関連部署との連携をとり、女子寮の改修計画を進める。
  - 2) 入寮希望者増を目指すために、広報活動を強化する。
  - 3) 進路実績向上を見据えた学習指導体制の充実化を図る。
  - 4) 学習効果を高め、かつ魅力ある寮生活実現のために、寮生対象の新教育プログラムを行う。
  - 5) 寮体験や部活動の合宿等を寮での実施を計画し、稼働率を上げていく。
- (6) DX 推進
- 1) 電子工作 IoT プログラミングのノウハウを活かし、生徒自ら制作した遠隔ロボットを活用し外部の参加者が授業やパネルディスカッション、校舎内見学を体験できる環境を整備する。
  - 2) 理数・情報・探究の授業を連携し、データ分析を伴う教科横断の取り組みを実施する。
  - 3) 一橋大学ソーシャルデータサイエンス学部、麗澤大学、日本女子大学の博士人材等による授業の機会を設ける。
  - 4) 北海道ニセコ高校や Google 社との連携による探究活動やテクノロジーを活用した課題解決型の授業を産学連携でおこなう。
  - 5) 民間企業が開催する研修に教員が参加し、最新テクノロジーの理解に加え、授業での取り扱い方やその他校内での活用方法を学ぶ。
  - 6) 教育理念である道徳教育の充実とともに、情報モラル等の基礎力強化のための個別最適型 AI ドリルを導入する。
- (7) 入試広報
- 1) 募集広報を強化し、偏差値の向上と安定的な入学者確保を図る。
  - 2) 中学及び高校の入試日程、入試方法、入試会場等を見直し、生徒募集を積極的に行う。
  - 3) 教育情報を発信するコンテンツ(パンフレット・動画・SNS)を見直し、効果的な情報発信を行う。
- (8) 通信制課程
- 1) 人間教育・道徳教育を基盤に据え、多様化・複雑化する社会に貢献できる「生きるチカラ」を身につけさせる教育を展開する。
  - 2) 生徒一人ひとりに寄り添い、海外短期留学や麗澤大学との高大連携授業などのキャリア教育を通して、希望進路実現のための最大限の支援を行う。
  - 3) 2つのコースの特徴を活かした進学教育を行うほか、学校行事や学習環境など特色ある通信制高校としてブランディングを図り、それらを広報活動に展開し、生徒の安定確保に努める。

## 4 麗澤瑞浪中学・高等学校

建学の精神に則り、道徳教育を根幹に、寮教育や教科指導、部活動や学校行事の充実を図るとともに、諸施策を以下のように実施する。

### 1. 重点目標

- (1) 生徒数の安定確保
  - 1) 中高入試・広報課を中心に全校体制で募集活動を展開し、新入生（特に寮生）を確保する。
  - 2) 中学入試においては、小規模で手厚い教育、高付加価値教育を積極的に広報する。
  - 3) 高校入試においては、近隣中学校や学習塾への広報活動を積極的に展開し、優秀な通学生の入学者を確保する。
  - 4) 高校寮生確保のために部活動（硬式野球部、ゴルフ部）を通じた募集施策を強化する。
  - 5) 広報の年間イベントを設計し、コアファンを育成するプログラムを企画・運営する。
- (2) 寮生活の指導体制の改革
  - 1) 教育理念の具現化（目指すべき生徒像の実現）に向けて、寮で行われている教育活動の見直しを進め、諸活動の教育的な意義と効果の再確認に全寮体制で取り組む。
  - 2) チューター・寮務の協働体制を構築し、寮生の生活の質の向上を図る。
  - 3) スクール TOMAS との連携を深め、学習体制を充実させて自律的学習者の育成を目指す。
- (3) 学習指導体制の充実
  - 1) 真の学力向上を6年間で実現する学習指導体制を構築する。
  - 2) 豊かな自然を活用した特色ある学びを実現するプログラムを構築する。
  - 3) 総合型選抜・学校推薦型選抜に対応した学習指導体制を整備するとともに海外大学進学を視野に入れた進路指導体制の具体的な検討を始める。
  - 4) 選抜性の強い大学への合格率の一層の向上を図る。
- (4) 部活動の体制見直しと環境整備
  - 1) 生徒全員が生き生きと活動できる環境の整備を図る。
  - 2) 決められた時間内で実りある活動を行い、学業と両立できる体制を構築する。
  - 3) 顧問、副顧問、コーチで業務を分け合い、教職員の勤務環境の改善を図る。
  - 4) 強化指定部・強化指定選手については、成果を出せるように活動を支援する。
- (5) 教職員の資質向上と勤務環境の改善
  - 1) 麗澤教育の理解と学習を通じて、教育理念に沿った教育活動の一層の充実を図る。
  - 2) 教育者としてのプロ意識を高め、定められた行動指針を実践する。
  - 3) 教職員の休日の部活動も含めた時間外勤務を削減できるように、業務内容の見直しと勤務負担の適正化を図る。

### 2. 主な事業計画

- (1) 経営戦略
  - 1) 中学入学 70 名（寮生 40 名）、高校入学 110 名（寮生 70 名）を確保し、安定した収入を確保する。
  - 2) クラス数を維持した範囲で中学入学 80 名、高校入学 120 名を目指す。
  - 3) 高校進学段階での他校受験ゼロ、途中転退学ゼロを目指す。
- (2) 進路戦略
  - 1) 国公立大学、難関私立大学など選抜性の高い大学への進学者を多数輩出するとともに、これらの大学群に挑戦しようとする志を持つ生徒を多数育成する。
  - 2) 外部企業と協働しながら総合型選抜、学校推薦型選抜に対応できるよう、思考力・判断力・表現力を向上させる系統的な学習プログラムを策定し、実施する。



- 3) 海外大学進学に関する情報を収集し、生徒へ進学ガイダンスを実施するとともに、グローバル教員と協力をして、エッセイの指導体制を確立する。
- (3) 教育戦略
    - 1) 一人一台端末を有効に活用しつつ、「個別最適な学び」「協働的な学び」に繋がる授業改革・テスト改革を行い、「主体的・対話的で深い学び」と真の学力定着を実現する6年間の指導計画を整備する。
    - 2) 総授業数を削減したカリキュラムの中で、学習内容や質を落とさず、生徒が主体的に学ぼうとする学習環境を整える。
    - 3) 高校英語の教授法について見直しを進める。Round システムの高校への援用を継続し、英検などの資格取得を推し進める。英単語テストの内容見直しや追試の徹底実施など、下位層を取りこぼさない教育システム・人員配置を構築する。
    - 4) ゴルフを利用した教育（ティーチングプロとの契約）を継続するとともに、自然体験などキャンパスや瑞浪の地域性を有効活用した教育プログラムを構築し、他校との差別化を図る。
    - 5) 外部企業とも協力しながら、教科教育、RISE（総合的な探究の時間）、MIETAN、Discovery Saturday の有機的な連動を図り、探究的な学びの手法を身につける継続的なプログラムの構築を行う。
  - (4) 募集広報戦略
    - 1) 中高入試・広報課の主導でさまざまな企画（特にコアファン育成プログラム）立案を行い、教員を巻き込んだ全校体制でのイベント運営を実現する。
    - 2) オンラインイベントを実施するなどし、全国各地の受験生との接触機会を増やす。
    - 3) 教育内容を伝えるコンテンツ、メディア（プレスリリース、HP、SNS）の整理統合、運用ルールの設定を進め、効果的な広報体制を確立する。
    - 4) 中学入試（適正型入試の導入）、高校入試（通学困難地域を対象にした入試制度の再整備）について再度検討をし、全国からの寮生募集に繋げる。
    - 5) 外部顧問、コンサルとの連携を強化し、導入の効果を最大化する。
  - (5) 寮教育
    - 1) 生徒の主体性を育む自治寮の実現に向け、育てたい寮生像の明文化、寮の日課の検討、望ましい環境整備のあり方や備品管理のあり方の検討を進める。
    - 2) チューター業務の見直しを進め、寮務との協働体制を模索しながら、永続的な寮教育体制についての検討を深める。
    - 3) ICT活用を推し進めるとともに、業務のアウトソーシングを検討し、寮教育の質を保障しつつ、チューター業務を削減できる施策の実現に努める。
  - (6) 特別活動
    - 1) 部活動における生徒の満足度を向上させることと教員の休日確保を両立させる。
    - 2) 教職員数、生徒数に見合う部活動のあり方について、整理統合も視野に入れながら検討を進める。
    - 3) 働き方改革との整合性を取りつつ、部活動指導のあり方について検討する。
    - 4) 週末帰宅・Discovery Saturday と整合性の取れる部活動運営方針を策定し、実施する。
    - 5) 生徒の学校活動への主体的な参画を促す生徒会活動の在り方について検討する。
  - (7) 働き方改革
    - 1) 教員の業務に対する意識改革を進め、長時間労働からの脱却を促す。
    - 2) 各チームリーダー・学年主任は部下の職務内容を把握し、19:00以降の居残りが発生しないように努める。
    - 3) 土曜日及び日曜日（非勤務日）の学校活動について制限を設け、教員の休日確保に努める。

- 4) チューターについては早番制度・遅番制度の維持を基本としつつ、8時間労働を基本とした労働環境の整備を進める。

## 5 麗澤幼稚園

建学の精神に則り、麗澤教育の入り口としての位置づけのもと、園児の生きる力や基礎体力の向上に努める。また、こころを育む教育を土台にした質の高い幼児教育を提供しつづける園を目指し、ビジョンや中期計画に沿った諸施策を実行に移す。

### 1. 重点目標

- (1) 心の教育の更なる充実により、幼稚園の付加価値向上を図る。
- (2) 定員の充足・収支改善に向けた取り組みを実施する。
- (3) 募集広報活動の積極的な実施によりファンの集まる幼稚園を目指す。
- (4) 勤務体制、残業管理の導入等の取り組みを通じ、働き方改革を進める。

### 2. 主な事業計画

- (1) 「心の教育」の更なる充実
  - 1) 人、物、環境など自分の周りにあるもの全てに対して「感謝の気持ち」を持つことが出来る保育活動の展開
    - ・子どもたちが様々な人に支えられていることに気がつき意識できるような言葉かけ
    - ・身のまわりの人や物に対して感謝の気持ちが持てるような教育環境の設定
    - ・「心のドリル」などの教材を活用し、生活の中で生れる感謝の育成
    - ・異年齢交流や活動等を通じて互いに「ありがとう」の言葉を交わせる環境設定
- (2) 定員の充足・収支改善
  - 1) 子ども・子育て支援新制度移行に向けた準備
  - 2) 新規事業として内製課外活動（英語）の実施
  - 3) 満3歳児の通年化及び2歳児保育の実施方法の検討
  - 4) 預かり保育開設時間の見直し・検討
- (3) 募集広報（ファンが集まる仕組み作り）の実施
  - 1) 会員制子育てクラブ「れいたくっこ」を活用した積極的な情報発信
  - 2) コンテンツ充実・情報の映像化
- (4) 働き方改革への取り組み
  - 1) 勤務シフト管理のシステム化
    - ・勤務シフト管理システムの導入、運用
  - 2) 人材育成への取り組み
    - ・残業管理体制の導入・適切な運用

## Ⅱ. 組織

### 1. 役員・評議員（2024年4月1日現在）

理事（定数13人、現員13人）

理事長 廣池幹堂

副理事長 長井孝介

常務理事 徳永澄憲、山崎裕二、小西直之

理事 岩澤知子、唐木重典、櫻井 讓、鈴木規子、西 裕康、橋本光世、  
藤田知則、松浪 進

監事（定数2～3人、現員2人）

濱井利一、風澤俊夫

評議員（定数27人、現員27人）

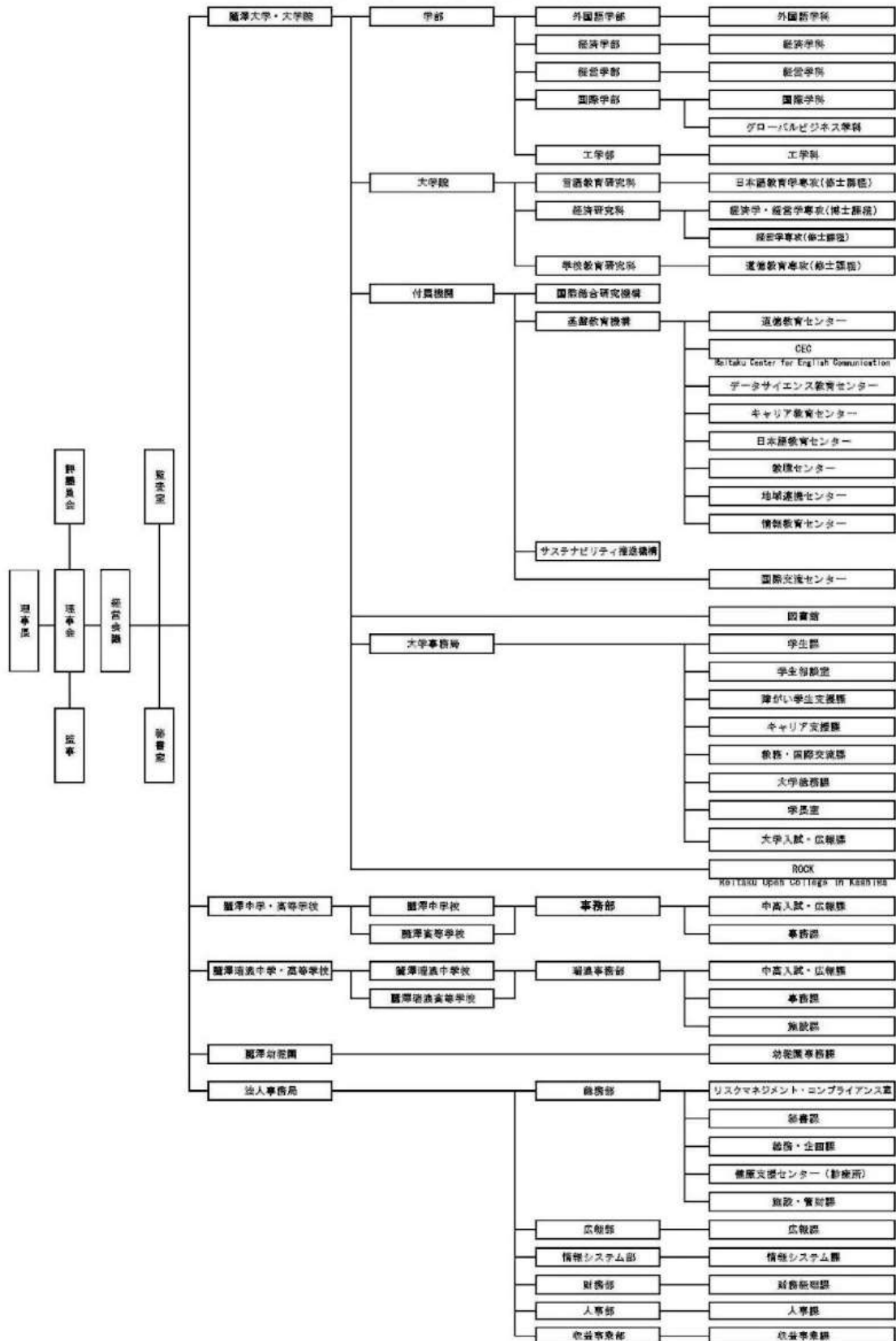
安達 肇、岩澤知子<sup>※</sup>、大木悦子、唐木重典<sup>※</sup>、川島正敬、黒須里美、小出 進、琴谷達郎、  
小西直之<sup>※</sup>、近藤明人、櫻井 讓<sup>※</sup>、白澤美幸、鷺見仁美、竹政幸雄、田村 環、徳永澄憲<sup>※</sup>、  
中山理恵、西 裕康<sup>※</sup>、野林靖彦、廣池英行、廣池幹堂<sup>※</sup>、藤田知則<sup>※</sup>、古川正儀、堀内一史、  
松浪 進<sup>※</sup>、山崎裕二<sup>※</sup>、渡邊 信

※印は理事兼任者

2. 組織図

(2024年4月1日現在)

令和6年4月1日付 学校法人廣池学園組織図



3. 教職員の構成

(2024年4月1日現在)

| 区 分                 |              | 専 任 |     |     | 非常勤講師 |    |     | 常勤嘱託 |    |    | 非常勤嘱託<br>パート嘱託 |    |    | 総 計 |     |     |
|---------------------|--------------|-----|-----|-----|-------|----|-----|------|----|----|----------------|----|----|-----|-----|-----|
|                     |              | 男   | 女   | 計   | 男     | 女  | 計   | 男    | 女  | 計  | 男              | 女  | 計  | 男   | 女   | 計   |
| 教育職                 | 麗澤大学         | 105 | 38  | 143 | 41    | 29 | 70  | -    | -  | -  | -              | -  | -  | 146 | 67  | 213 |
|                     | 麗澤高等学校       | 49  | 17  | 66  | 7     | 13 | 20  | -    | -  | -  | -              | -  | -  | 56  | 30  | 86  |
|                     | 麗澤中学校        | 22  | 17  | 39  | 2     | 3  | 5   | -    | -  | -  | -              | -  | -  | 24  | 20  | 44  |
|                     | 麗澤瑞浪高等<br>学校 | 30  | 6   | 36  | 2     | 2  | 4   | -    | -  | -  | -              | -  | -  | 32  | 8   | 40  |
|                     | 麗澤瑞浪中学<br>校  | 15  | 6   | 21  | 2     | 2  | 4   | -    | -  | -  | -              | -  | -  | 17  | 8   | 25  |
|                     | 麗澤幼稚園        | 2   | 20  | 22  | 0     | 13 | 13  | -    | -  | -  | -              | -  | -  | 2   | 33  | 35  |
| 小 計                 |              | 223 | 104 | 327 | 54    | 62 | 116 | -    | -  | -  | -              | -  | -  | 277 | 166 | 443 |
| 一般職・<br>技能職・<br>現業職 | 監査室          | 1   | 0   | 1   | -     | -  | -   | 0    | 0  | 0  | 0              | 0  | 0  | 1   | 0   | 1   |
|                     | 秘書室          | 1   | 1   | 2   | -     | -  | -   | 0    | 0  | 0  | 0              | 0  | 0  | 1   | 1   | 2   |
|                     | 大学事務局        | 30  | 25  | 55  | -     | -  | -   | 7    | 14 | 21 | 2              | 12 | 14 | 39  | 51  | 90  |
|                     | 麗澤中高事務<br>部  | 8   | 5   | 13  | -     | -  | -   | 1    | 4  | 5  | 0              | 6  | 6  | 9   | 15  | 24  |
|                     | 麗澤瑞浪事務<br>部  | 8   | 5   | 13  | -     | -  | -   | 1    | 4  | 5  | 0              | 6  | 6  | 9   | 15  | 24  |
|                     | 幼稚園事務課       | 0   | 1   | 1   | -     | -  | -   | 0    | 1  | 1  | 0              | 1  | 1  | 0   | 3   | 3   |
|                     | 総務部          | 15  | 5   | 20  | -     | -  | -   | 1    | 3  | 4  | 2              | 3  | 5  | 18  | 11  | 29  |
|                     | 広報部          | 0   | 0   | 0   | -     | -  | -   | 0    | 0  | 0  | 0              | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   |
|                     | 情報システム<br>部  | 5   | 1   | 6   | -     | -  | -   | 1    | 0  | 1  | 0              | 1  | 1  | 6   | 2   | 8   |
|                     | 財務部          | 4   | 1   | 5   | -     | -  | -   | 0    | 2  | 2  | 0              | 1  | 1  | 4   | 4   | 8   |
|                     | 人事部          | 10  | 3   | 13  | -     | -  | -   | 0    | 2  | 2  | 0              | 1  | 1  | 10  | 6   | 16  |
|                     | 収益事業部        | 0   | 0   | 0   | -     | -  | -   | 0    | 0  | 0  | 0              | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   |
| 小 計                 |              | 82  | 47  | 129 | -     | -  | -   | 11   | 30 | 41 | 4              | 27 | 31 | 97  | 104 | 201 |
| 総 計                 |              | 305 | 151 | 456 | 54    | 62 | 116 | 11   | 30 | 41 | 4              | 27 | 31 | 379 | 270 | 644 |

注1) 役員・顧問は除いた。

注2) 専任教職員（教員）の中には嘱託専任教員を含めた。

注3) 無給者は除いた。

注4) 公益財団法人モラロジー道德教育財団への出向者は人事部へ含めた。

注5) 瑞浪出向者は麗澤瑞浪事務部へ含めた。

### Ⅲ. 予算

#### 1. 資金収支予算

#### 資金収支予算書

令和6年4月1日から  
令和7年3月31日まで

(単位 円)

| 収入の部 |             |                 |                 |                 |
|------|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 科    | 目           | 令和6年度予算         | 令和5年度予算         | 増 減             |
|      | 学生生徒等納付金収入  | 4,512,120,000   | 4,247,471,000   | 264,649,000     |
|      | 手数料収入       | 92,389,000      | 101,874,000     | △ 9,485,000     |
|      | 寄付金収入       | 390,809,000     | 410,168,000     | △ 19,359,000    |
|      | 補助金収入       | 1,178,288,000   | 1,874,932,000   | △ 696,644,000   |
|      | 資産売却収入      | 1,293,000       | 1,293,000       | 0               |
|      | 付随事業・収益事業収入 | 725,547,000     | 659,487,000     | 66,060,000      |
|      | 受取利息・配当金収入  | 199,000,000     | 197,000,000     | 2,000,000       |
|      | 雑収入         | 127,749,000     | 155,262,000     | △ 27,513,000    |
|      | 借入金等収入      | 0               | 0               | 0               |
|      | 前受金収入       | 0               | 0               | 0               |
|      | その他の収入      | 436,240,000     | 5,530,376,000   | △ 5,094,136,000 |
|      | 資金収入調整勘定    | △ 1,498,216,000 | △ 1,760,819,000 | 262,603,000     |
|      | 収入の部合計      | 9,745,965,000   | 15,209,525,836  | △ 5,463,560,836 |
| 支出の部 |             |                 |                 |                 |
| 科    | 目           | 令和6年度予算         | 令和5年度予算         | 増 減             |
|      | 人件費支出       | 4,041,655,000   | 3,831,595,000   | 210,060,000     |
|      | 教育研究経費支出    | 1,849,329,000   | 2,154,148,000   | △ 304,819,000   |
|      | 管理経費支出      | 1,118,765,000   | 1,415,646,000   | △ 296,881,000   |
|      | 借入金等利息支出    | 0               | 0               | 0               |
|      | 借入金等返済支出    | 0               | 0               | 0               |
|      | 施設関係支出      | 692,460,000     | 3,843,703,000   | △ 3,151,243,000 |
|      | 設備関係支出      | 146,092,000     | 1,315,476,000   | △ 1,169,384,000 |
|      | 資産運用支出      | 429,240,000     | 909,393,000     | △ 480,153,000   |
|      | その他の支出      | 90,345,144      | 184,050,820     | △ 93,705,676    |
|      | 〔予備費〕       | 20,000,000      | 20,000,000      | 0               |
|      | 資金支出調整勘定    | 0               | △ 22,070,000    | 22,070,000      |
|      | 翌年度繰越支払資金   | 1,358,078,856   | 1,557,584,016   | △ 199,505,160   |
|      | 支出の部合計      | 9,745,965,000   | 15,209,525,836  | △ 5,463,560,836 |

## 2. 事業活動収支予算

### 事業活動収支予算書

令和6年4月1日から  
令和7年3月31日まで

(単位 円)

|               |           | 令和6年度予算          | 令和5年度予算          | 増               | 減             |             |
|---------------|-----------|------------------|------------------|-----------------|---------------|-------------|
| 教育活動収支        | 収入の活動     | 科 目              |                  |                 |               |             |
|               |           | 学生生徒等納付金         | 4,512,120,000    | 4,247,471,000   |               | 264,649,000 |
|               |           | 手数料              | 92,389,000       | 101,874,000     | △             | 9,485,000   |
|               |           | 寄付金              | 389,825,000      | 411,314,000     | △             | 21,489,000  |
|               |           | 経常費等補助金          | 1,178,288,000    | 1,180,517,000   | △             | 2,229,000   |
|               |           | 付随事業収入           | 703,547,000      | 642,445,000     |               | 61,102,000  |
|               |           | 雑収入              | 127,749,000      | 155,262,000     | △             | 27,513,000  |
|               | 教育活動収入計   | 7,003,918,000    | 6,738,883,000    |                 | 265,035,000   |             |
|               | 支出の活動     | 科 目              |                  |                 |               |             |
|               |           | 人件費              | 4,080,001,000    | 3,861,187,000   |               | 218,814,000 |
|               |           | 教育研究経費           | 3,111,599,000    | 3,145,140,000   | △             | 33,541,000  |
|               |           | 管理経費             | 1,354,226,000    | 1,656,359,000   | △             | 302,133,000 |
|               |           | 徴収不能額等           | 0                | 0               |               | 0           |
|               | 教育活動支出計   | 8,545,826,000    | 8,662,686,000    | △               | 116,860,000   |             |
| 教育活動収支差額      |           | △ 1,541,908,000  | △ 1,923,803,000  |                 | 381,895,000   |             |
| 教育活動外収支       | 収入の活動     | 科 目              |                  |                 |               |             |
|               |           | 受取利息・配当金         | 199,000,000      | 197,000,000     |               | 2,000,000   |
|               |           | その他の教育活動外収入      | 22,000,000       | 17,042,000      |               | 4,958,000   |
|               | 教育活動外収入計  | 221,000,000      | 214,042,000      |                 | 6,958,000     |             |
|               | 支出の活動     | 科 目              |                  |                 |               |             |
|               |           | 借入金等利息           | 0                | 0               |               | 0           |
|               |           | その他の教育活動外支出      | 0                | 0               |               | 0           |
|               | 教育活動外支出計  | 0                | 0                |                 | 0             |             |
|               | 教育活動外収支差額 |                  | 221,000,000      | 214,042,000     |               | 6,958,000   |
|               | 経常収支差額    |                  | △ 1,320,908,000  | △ 1,709,761,000 |               | 388,853,000 |
| 特別収支          | 収入の活動     | 科 目              |                  |                 |               |             |
|               |           | 資産売却差額           | 0                | 0               |               | 0           |
|               |           | その他の特別収入         | 7,588,000        | 699,578,000     | △             | 691,990,000 |
|               | 特別収入計     | 7,588,000        | 699,578,000      | △               | 691,990,000   |             |
|               | 支出の活動     | 科 目              |                  |                 |               |             |
|               |           | 資産処分差額           | 0                | 0               |               | 0           |
|               |           | その他の特別支出         | 0                | 0               |               | 0           |
| 特別支出計         | 0         | 0                |                  | 0               |               |             |
| 特別収支差額        |           | 7,588,000        | 699,578,000      | △               | 691,990,000   |             |
| 〔予備費〕         |           | 20,000,000       | 20,000,000       |                 | 0             |             |
| 基本金組入前当年度収支差額 |           | △ 1,333,320,000  | △ 1,030,183,000  | △               | 303,137,000   |             |
| 基本金組入額合計      |           | △ 453,247,000    | △ 4,344,848,000  |                 | 3,891,601,000 |             |
| 当年度収支差額       |           | △ 1,786,567,000  | △ 5,375,031,000  |                 | 3,588,464,000 |             |
| 前年度繰越収支差額     |           | △ 10,475,679,159 | △ 5,130,209,759  | △               | 5,345,469,400 |             |
| 基本金取崩額        |           | 1,495,101,000    | 0                |                 | 1,495,101,000 |             |
| 翌年度繰越収支差額     |           | △ 10,767,145,159 | △ 10,505,240,759 | △               | 261,904,400   |             |
| (参考)          |           |                  |                  |                 |               |             |
| 事業活動収入計       |           | 7,232,506,000    | 7,652,503,000    | △               | 419,997,000   |             |
| 事業活動支出計       |           | 8,565,826,000    | 8,682,686,000    | △               | 116,860,000   |             |